ニコないつうしん11月号 2016年 Vol.105

子どもの歯並び矯正

治療あせらないで

自分の歯並びは気にならなくても、わが子の歯並びは気になってしまう。そんな親の心理も手伝ってか、子どもの歯列矯正を勧める矯正歯科の看板を街中で見掛ける機会も増えたが、子どもの矯正治療は本来、いつから始めればいいのだろうか。

専門医でつくる一般社団法人日本歯科矯正専門医学会（JSO、東京都西東京市）はこのほど、上の前歯が突き出た子どもに対する診療ガイドラインを作成した。

この中で、7～11歳の小児への早期治療は行わないよう強く推奨した。

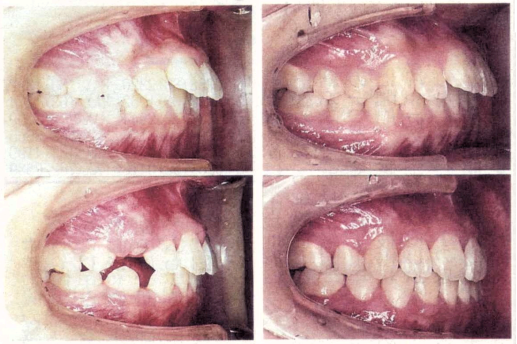
子どもの乳歯はおおよそ6歳から12歳ごろまでの間に徐々に永久歯に生え変わる。上の前歯が生えるのは7～9歳ごろだが、歯並びやかみ合わせが悪い場合、永久歯が生えそろう前の早期治療を勧めている歯科医は多い。

JSOが診療ガイドライン作成に着手したのは、歯科医の増加に伴い、矯正治療を受ける患者や治療に伴うトラブルも急増したのがきっかけ。

その背景には、矯正治療専門の研修を受けていない歯科医師でも自由に「矯正歯科」を標榜（ひょうぼう）できる制度があるという。

池元太郎会長は「科学的な根拠に基づいた診療ガイドラインを公表しようと考えた」と話す。JSOは海外の論文や学術誌などを調査。トラブルの多い子どもの早期治療に的を絞り、今回のガイドラインを作成した。

患者向けには、子どもの矯正治療はその開始が永久歯の生えそろった12歳ごろ以降でも、早期治療から始めた場合と比較した結果に変わりはないと指摘。早期治療が有効な患者が全くいないわけではないものの、「早ければ早い方がよいということはない」と説明している。



8歳から治療

㊤8歳児の上の前歯が生えた後の初診時。前方に突き出ている
㊦1年後、患者の要望で早期矯正治療し、やや突出が後退した

12歳から治療

㊤12歳で永久歯が生えそろった段階の治療前。前歯は再び突き出た
㊦治療で上下左右の第1小臼歯を抜歯し、約3年後、きれいな歯並びになった様子
（いずれもJSO提供）

ガイドラインは、公益財団法人日本医療機能評価機構（東京都千代田区）が運営する医療情報サービス「Minds（マインズ）」のホームページに矯正歯科の分野で初めて掲載された。現在の治療の在り方に一石を投じた形で、今後波紋を広げそうだ。

同機構客員研究主幹で今回の評価に当たった国際医療福祉大の吉田雅博教授（外科）は「歯科矯正には健康保険が利かない。それなのに、どれくらいの治療をいつから受ければいいのかを示すものがなかったのが不思議なぐらい。今後、反論を取り込んで、よりよいガイドラインになってほしい」と話した。

今回のニコないつうしんは、平成28年10月19日新潟日報朝刊の記事を載せさせていただきました。

YOMIURI ONLINEにも同様の記事が載っています。
http://www.yomiuri.co.jp/science/20161006-OYT1T50093.html

また日本歯科矯正専門医学会 歯科矯正領域の診療ガイドラインは下記で見る事ができます。
http://www.jso.or.jp/html/aboutjso/guideline.html

ぜひご参考にしていただければ幸いです。

なお、文中に出てくる池元太郎 日本歯科矯正専門医学会 会長は西区寺尾東で池矯正歯科を開業されています。

ないとう歯科医院 新潟市東区物見山2-35-19 TEL:025-270-2218 http://www.naito-dental.com